

たていしいせき はやちねさん げんりゅう ひえぬきがわ こまたがわ

立石遺跡は早池峰山に源流を持つ稗貫川と支流の小又川の

かがんだんきゅう きゅう

合流点北東部に形成された河岸段丘上にあります。過去に旧

うちかわめ しんちく ともな

内川目小学校新築工事や住宅建設に伴い、昭和 52 ～ 53 年・

はくくつ

61 年・平成 16 年の過去 3 回発掘調査が行われました。

調査では石を集めて様々な形に並べた「配石遺構」が 30 基

はいせきいこう き

以上見つかり、これらは縄文時代後期～晩期 (約 4,000

じょうもんじだいこうき ばんき

～ 2,300 年前) のものです。発見された円形の配石遺構の一

はいせきいこう

つは、直径が 2 m で、石の下に穴が掘ってあったので、縄文

ちよっけい

人の墓だと考えられます。また、14m 以上にわたって弓なり

はか

に石を配置した特徴的な配石遺構なども見つかりています。

とくちょうてき はいせきいこう

出土した遺物には、土製品が多く見られます。土偶は 300

どぐう

点以上出土しており、腕輪形土製品は 40 点以上、他にもイノ

うでわがた

シシ形土製品や貝形土製品、さらに昭和 27 年の旧内川目小学

きゅう

校拡張工事では、

かくちょう

仮面につけたとみ

かめん

られる耳形や鼻形

みみがた はながた

の土製品が 2 点ず

つ見つかりいま

す。



第 1・2 号配石遺構 (昭和 52 年度調査)